

授業科目名	認知心理学	単位数	2
担当教員名	伊藤 一美	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>B.問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概をもつこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 認知心理学とは何かということについて、行動主義の心理学と比較し、説明できる。</p> <p>(2) 記憶のメカニズムを理解し、その理論を説明できる。</p> <p>(3) 言語と非言語情報処理過程を理解し、その理論を説明できる。</p> <p>(4) 推理、問題解決、意思決定における思考過程を理解する。</p> <p>(5) 認知の制御過程を理解し、そのメカニズムを説明できる。</p> <p>(6) 記憶が教科理解にどのような役割を果たしているのかについて理解を深め、教科学習に つまずきを示す子どもたちへの具体的な支援方法について説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>認知心理学とは人間の「知」の働きを解明しようとする、新しい科学であり、人間の心的過程や記憶過程を科学的に分析することにより、人間の行動を理解することを目的とした心理学の 1 分野である。本科目では、日常生活における何気ない知覚や記憶などの認知情報処理が、いかに複雑で精緻なプロセスであるかを理解することを目的としている。さらに認知過程の基礎である記憶の過程を中心に、人の認知過程のしくみについて、最新の研究成果を踏まえ、専門性の高い内容についても学ぶ。また、最新の研究成果のひとつとして、認知心理学から見た教科理解についても触れ、発達障害のある子どもたちの学習支援のあり方について、アクティブラーニングの手法も用いて検討することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：認知心理学の成立史 (1) 心理学と認知心理学</p> <p>第2回：認知心理学の成立史 (2) 学習理論と認知理論</p> <p>第3回：記憶のメカニズム (1) 記憶の過程と二重貯蔵モデル</p> <p>第4回：記憶のメカニズム (2) ワーキングメモリ</p> <p>第5回：言語の情報処理過程 (1) 概念と言語</p> <p>第6回：言語の情報処理過程 (2) 知識と表象</p> <p>第7回：非言語の情報処理過程</p> <p>第8回：認知の制御過程 (1) 注意機能</p> <p>第9回：認知の制御過程 (2) メタ認知</p> <p>第10回：思考のメカニズム (1) 推理</p> <p>第11回：思考のメカニズム (2) 問題解決</p> <p>第12回：思考のメカニズム (3) 意思決定</p> <p>第13回：教科理解と記憶 (1) 計算と記憶</p> <p>第14回：教科理解と記憶 (2) 計算の処理過程</p>			

第15回：特別支援教育への応用 学習支援のあり方
定期試験

スクーリングでの学修内容

記憶のメカニズム(記憶の過程と二重貯蔵モデル、ワーキングメモリ)、言語の情報処理過程(概念と言語、知識と表象)、非言語の情報処理、認知の制御過程(注意とメタ認知)、教科理解と記憶(計算と記憶、その処理過程)、特別支援教育への応用について(アクティブラーニングの手法も用いる)、講義を行う。(主に第3、4回を中心に、第5回から第9回の概要、第13から15回の内容を含む。)

教科書

(1) 森敏昭、井上毅、松井孝雄(1995)『グラフィック認知心理学』サイエンス社

参考文献

- (1) 高野 陽太郎 編(1995)『認知心理学2「記憶」』東京大学出版会
- (2) 太田 信夫 編(2006)『記憶の心理学と現代社会』有斐閣
- (3) 多鹿 秀継・吉田 甫(1995)『認知心理学から見た数の理解』北大路書房
- (4) 宮本 信也 編(2019)『学習障害のある子どもを支援する』日本評論社

学生に対する評価

スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。